

桜歯 ニュース

2022. 1. 15
VOL.213



日本大学歯学部ホームページ： <https://www.dent.nihon-u.ac.jp/>



新しい年への抱負

付属歯科病院長 飯沼 利光

暦は2022年となり、新しい一年が始まりました。昨年も、世界中の人々が新型コロナウイルス感染症に振り回され、苦勞の多い1年を過ごすこととなりました。皆さんにとっては、体調管理はもちろんですが、勉学に対する意気込みに水をさされる日々が続いたかも知れません。しかし、人間は窮地に追い込まれ、瞬時に大切な判断を迫られる時こそ、その人が本来持つ人間性や、それまで培ってきた努力が活かされると思っています。ですから、日本大学歯学部集まるすべての学生諸君には、各人が現在置かれた環境に決して飲み込まれてしまうのではなく、自分がめざす目標に向け、一心不乱に歩み続ける強い意志と、行動力を持ち続けて欲しいと思います。

昨年暮れ本館2期工事が終わり、新校舎で授業を行う準備が整いつつあります。私たちはこれから、これまでの百年の伝統に支えられ、新しい百年の軌跡をこの新しい校舎で築くこととなります。そして、その主役は皆さんなのです。この学び舎が、患者さんやこの地を訪れる人々の目に、輝いて見えるか、それともくすんで見えるかは、私たちの行動次第なのです。ですから、まずは年頭にあたり、何から取り組むべきかを各人しっかりと考えてみましょう。

(教授 歯科補綴学第I講座)

本学における不祥事について

歯学部長 本田 和也

今般の一連の不祥事により、学生、保護者の皆様、卒業生など関係者各位に多大なご心配をお掛けしておりますことを心よりお詫び申し上げます。

今後、このような事態により失ってしまった信頼の回復のため、教育、研究、学生生活等において教職員一同これまでも増して努力し、最善を尽くしてまいります。また、この件で歯学部の教育・研究活動に、今後も支障は生じさせないよう対応してまいります。

本学部では学生生活による不安や悩みのある学生に対して、各教員はもとより、学生課窓口および学生支援室において個別相談やカウンセリングを行っております。どんなことでもご相談できますので、安心してご利用ください。

最後に、在学生の皆様の期待を裏切らぬよう、教職員が一体となって支援に努めてまいります。何卒よろしく願いいたします。

以 上

学生支援室

相談事項に関しての個人のプライバシーは厳守されますので、安心して相談してください。保護者の方も利用することができます。

相談時間：月曜日 12：00～13：00

水・木・金曜日 10：30～16：00

火曜日 11：30～17：00

場 所：歯学部3号館1階 (TEL03-3219-8051)

なお、大学本部（JR市ヶ谷駅徒歩1分）においても相談等を受けることができますので、本部学生支援センター（TEL03-5275-8238：相談専用）までお問い合わせください。

修学等支援のための 奨学金について

学生担当 宮崎 真至

学生の修学支援等のために、日本大学及び歯学部独自の学内奨学金や、学外の奨学金財団による以下の奨学金制度を利用することができます。対象となる条件が異なるので、それらを確認したうえで積極的に活用して下さい。

1. 給付型奨学金

1) 日本大学特待生：学業成績優秀にして品行方正な学生に対し、毎年度選考の上、特待生として、いずれかの奨学金を給付（甲種：授業料1年分相当額の半額及び図書費12万円、乙種：授業料1年分相当額の半額）
2) 日本大学創立130周年記念奨学金：経済的理由により学費等の支弁が困難である学部生（年額30万円）
3) 日本大学事業部奨学金：経済的理由により学費等の支弁が困難であり、学業成績が優秀な学部生（年額10万円）（令和3年度は休止）
4) 歯学部佐藤奨学金（第1種）：学業成績が優秀な学部生（年額20万円あるいは10万円）
5) 歯学部佐藤奨学金（第2種）：課外活動等に顕著な功績のある学部生（年額10万円）
6) 歯学部佐藤奨学金（第3種）：海外で開催される学会で研究発表をする2～3年の大学院生（年額上限50万円）（令和3年度は休止）
7) 歯学部同窓会奨学金：学業優秀で課外活動に顕著な成果を収め学部の発展に貢献した学部生（年額10万円）及び学部学生への学習指導貢献が顕著である大学院生（年額5万円）
8) 日本大学古田奨学金：学業成績が優秀で人物が優れている大学院生（年額20万円）
9) 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金：学業成績が優秀で人物が優れている大学院生（年額20万円）

2. 貸与型奨学金

1) 日本大学歯学部佐藤奨学金：人物が優れ、不測の事態により経済的理由等で学業継続が困難な学生（高学年）に対して選考の上、授業料相当額を限度に日本大学歯学部が貸与。
2) 日本大学歯学部後援会奨学金：人物が優れており、将来歯科医師として有望であること。経済的理由により学費の納入が困難であり、かつ他の奨学金による支弁が受けられない5年生以上の学生（原則として当該年度の授業料相当額以内）に貸与。

3. 学外奨学金

1) 日本学生支援機構奨学金：学部生及び大学院生には「第一種（無利子貸与）」「第二種（有利子貸与）」があり、多くの学生に貸与されている。将来の返還については、次の世代の奨学金となるため、厳格な仕組みで運用されている。また、授業料等減免・給付型奨学金などもあり。詳細は http://www.jasso.go.jp/ を参照。
2) 森田奨学育英会奨学金：学部6年生又は大学院4年生で、学業・人物ともに優秀かつ健康と認められる者に対して、選考の上奨学金が給付。
3) NSKナカニシ財団奨学生：学部学生および大学院生で、学業・人物ともに優秀かつ、経済的理由によって修学が困難なものに対して、選考の上奨学金が給付。

4. その他の制度

提携教育ローン制度等もあり、上記を含めて詳細の問い合わせは学生課まで。

【問い合わせ先（学生課）】

03-3219-8004 (de.student@nihon-u.ac.jp)

(教授 歯科保存学第I講座)

臨床研修歯科医師選考試験 について



卒後教育担当 武市 収

日本大学歯学部附属歯科病院では、臨床研修歯科医師養成のための様々なプログラムを用意しております。そのため、毎年当歯科病院での研修を希望する歯科医師が多く、年々希望者数が増加しております。当歯科病院で臨床研修を行うためには、当歯科病院で実施する選考試験を受験し、その後マッチングする必要があります。

選考試験として、①書類審査、②面接、③筆記試験を実施いたします。①書類審査では、5年次までの学業成績などが評価されます。また、本学部6年生並びに卒業生については②面接が免除されており、その代わりに在学中の学生生活における生活態度、すなわち「授業態度」、「出欠席状況」、「クラブ活動」、「学内外における学校行事への参加状況」および「表彰歴」などを基に評価します。他大学卒業の受験者については、これまで学んできた母校とは異なる環境で研修を行うことになるため、当歯科病院で研修を行うに足る人物であること、また積極性と協調性を有する人材を獲得したいとの思いから、面接は1対1ではなく、集団面接を採用しております。③筆記試験は、本年度は既卒生と他大生を対象に7月3日（土）および現役生を対象に7月6日（火）に実施いたしました。当歯科病院ではS・C・O・Pコース、Rコース、CDコースを設けており、募集定員は計140名ですが、昨年度よりも応募者数は多く今年度は235名が筆記試験を受けられました。その後、選考試験の結果をマッチング協会に提出し、10月19日（火）にはマッチング協会から当歯科病院にマッチした140名のリストが送られてきました。現在、140名全員が仮契約を済ませています。

当歯科病院では、学部教育で習得した歯科診療に関する知識、技能および態度を臨床の場に結びつけるシームレスな指導を行っております。皆さんが国家試験に合格し、来年度の歯科医師臨床研修を受けられることをご祈念申し上げます。

(教授 歯科保存学第II講座)

講座紹介

衛生学講座

衛生学講座が主に担当する教科は、第3学年の前期に講義、後期には実習が組まれています。概念的な事項が多い学習項目も実習で理解が深まったでしょうか。臨床教科を一通り終えた第6学年の皆さんは、歯科保健活動の実際を地域保健学で学んだと思います。CBTや国家試験を控えた皆さんにとって、これらの教科が単なる暗記モノにしか思えないとしたら、それはとても残念でもったいないことです。衛生学や保健学は実践的な学問と言われており、現に多くの先輩方が学校歯科医として、あるいは地域の歯科医師会の活動を通じて、衛生・保健に携わっています。そして衛生学講座の教員も、歯科衛生・保健活動の実践者の横顔を持っています。感染症から人々を守る世の中の仕組みはニュースで知ったけど、齲蝕や歯周病などの歯科疾患から人々を守る制度は？是非、実社会のイメージを持って興味を抱き、疑問が生じたら衛生学講座の教員に尋ねてみてください。

法医学講座

歯科法医学は、犯罪に関連した遺体や生体試料、事故や大災害における個人識別という社会的任務を担う学問です。特に身元不明死体の個人識別では、歯科所見を含む顎顔面領域の情報は極めて有益です。

当法医学講座では、法医学および医事法学の講義・実習を担当しています。法医学の講義では、死の定義や死体現象、歯や骨からの年齢推定や性別判定法、血痕検査、DNA鑑定などについて学びます。また、全国で大規模災害が多発している昨今、被害者の身元確認作業など、歯科医師の協力も社会から期待されていることから、法医学実習では、死後所見（デンタルチャート）の記録法および生前カルテとの照合法について、マネキンを用いた模擬実習を通じて習得します。一方、医事法学では、歯科医師法・歯科衛生士法・歯科技工士法等の身分法および医療法に規定されている各事項、また、医療事故や医療過誤が起きた際の刑事的かつ民事的責任、行政処分について学びます。

歯科保存学第Ⅰ講座

保存修復学とは、齲蝕を主とした硬組織疾患および形態や色調の異常に対する治療、あるいは疾患の予防などについて研究する学問です。最近では、審美的な要求に応えるために、生活歯のホワイトニングについても取り組んでいます。

このように、保存修復学は、歯科医学領域の発展とともに社会のニーズの変化に伴って、発展してきた分野といえます。例えば、齲蝕治療においては、病巣の除去とともに修復物を保持するために、さらなる歯質削除が必要でした。しかし、近年では歯科接着技術や修復材料の進歩によって、低侵襲で審美的な修復治療 (minimal intervention dentistry) が可能となるとともに、審美性を求めるメタルフリー修復が可能となりました。また、硬組織疾患を予防する処置法なども確実であるとともに簡便な治療法が検討されています。

当講座では、最新の知識や技術を臨床の場に生かすとともに、これらの知見を学生に教授することを目的として、研究、臨床および教育に取り組んでいます。

歯科保存学第Ⅱ講座

「歯が痛くて噛めない」「歯ぐきが腫れて痛い」と訴え、患者さんが来院されます。「眠れない」「食事ができない」などQOLが著しく下がっているため、何とかしなくてはなりません。このようなケースの多くは、歯の神経を取ったり（抜髄）、根の治療（根管治療）を行ったりすることで治癒しますが、治療を行っても治癒せず難治化し、抜歯に至るケースも少なくありません。

歯内療法学講座では、一般的な根の治療の他、歯の神経を取らずにすむ方法や抜歯が適応とされる難治性疾患に対する歯の保存治療を実践しています。皆さんは第4学年の講義・実習を通してこれらの治療を学び、第5学年の臨床実習では形状記憶性ニッケルチタンファイルや歯科用実体顕微鏡（マイクロスコープ）の使用法など最新のトピックスについて学びます。治療の実際をモニター越しに観ながら、難症例の治療法を手取るように学ぶことができますので、その全てを吸収するようにしてください。

大学構内に足を運ぶ機会が制限され、教員と学生が対面することも少ない状況が続いています。桜歯ニュース編集委員会では、在校生とご家族に向けた紹介文を各講座・分野の先生方にご準備頂き、前号・本号に掲載することを企画いたしました。コロナ禍にあって在校生と学校・教員の距離を縮める一助となれば幸いです。

歯科保存学第Ⅲ講座

みなさん歯周病は成人の約7割が罹患している、国民病であることを知っていますか。つまり、歯周病はみなさんが勉強する最も身近な病気です。また、歯周病はお口の中のだけに問題が起こるのではなく、糖尿病、心臓病、誤嚥性肺炎、リウマチや早産など全身の病気とも深い関係にあります。

歯周病学講座では、「お口の中の健康を保つことは全身の健康につながる」という考え方を基に日々の治療や研究を行っています。また、重症度の高い歯周病の患者さんに対しては、失われた歯周組織を元に戻す再生治療を積極的に行っています。研究は、国民の健康増進にフィードバックできるような研究を目指し、多くの基礎系講座と共同研究をしています。そして、歯周組織再生の研究も行っています。学生教育では第4学年の講義、実習、第5学年の臨床実習を担当しています。講義と実習をリンクさせ、理論と実践を同時に理解できるように工夫しています。

歯科補綴学第Ⅰ講座

歯科補綴学第Ⅰ講座は、無歯顎患者への「審美的回復」と、「咬合機能の回復」を目的として、関連する技術と知識を習得する総義歯補綴学を中心とした講義と実習を行います。さらに、咬合・顎関節・下顎運動の関係を中心とした基礎知識を学ぶ第3学年時の咬合学概論、顎機能障害の診断や治療法の知識の習得を目的とする第4学年時の顎機能治療学、顎機能分析学および顎機能分析演習の授業を担当しています。8020の達成により無歯顎患者が減少し、総義歯を学ぶ意味について疑問がある学生さんもあるかもしれませんね。しかし無歯顎患者に対する総義歯治療だけでなく、全顎的な咬合の再構成による治療を必要とする有歯顎患者への治療を行う際にも、総義歯と咬合、および顎機能に対する知識はその基礎となり非常に重要です。超高齢者への治療は勿論の事、ライフステージの若い有歯顎患者への全顎的な補綴治療の基礎を学ぶ事に対しても大きなニーズに対応できる分野として、日々臨床と研究をしている講座です。

歯科補綴学第Ⅱ講座

当講座では第4学年から第6学年の学生を対象に部分欠損に用いられる様々な有床義歯の補綴学の教育を担当しています。第4学年では講義として「部分床義歯補綴学Ⅰ・Ⅱ」、実習では顎歯模型を用いた「部分床義歯補綴学実習」を行うことで基本技能の習得を目指しています。第5学年では実際、患者への治療計画立案から義歯の装着・管理までを臨床実習を通して習熟することを目指しています。第6学年では、それまで学習してきた知識や技能を深めるべく、カリキュラムを構成しています。そのほか、スポーツ歯学や顎顔面補綴治療等も対応しており、ユニークな特長を持った講座です。部分床義歯は煩雑な工程を経て製作されるだけでなく、欠損形態は多種にわたるため、理解を深めるのは容易ではないかもしれませんが、学生が歯科医師となった後も有用となる考え方・技能を習得できるよう、講座員全員が心がけています。

歯科補綴学第Ⅲ講座

当講座では、冠橋義歯（クラウンブリッジ）補綴学の教育、研究、臨床を担当しています。歯の一部や歯そのものが欠損したところを、冠（クラウン）や固定式の義歯（ブリッジ）を用いて、形態的、機能的、審美的に修復する分野です。近年の発展が著しい“デジタルデンティストリー”の教育も担当していますが、スマホなどの操作に詳しい皆さんには興味深い内容だと思います。

学部教育では第3学年後期から第4学年後期までに、講義3科目、実習2科目を行っています。第5学年では「院内実習」、第6学年では「臨床実習アドバンスト」と、第3学年後期から第6学年までの長期間にわたり、学生の皆さんと一緒に学習することになります。皆さんの目標である「歯科医師国家試験合格」を達成するために、講座員全員でサポートします。当講座には若い先生が多く所属していますので、皆さんと近い距離から教育できると思いますので、しっかりと“活用”してください。

講座紹介

総合歯科学分野

総合歯科学分野は、主に歯科医師臨床研修を担当しており、毎年100名近くの臨床研修歯科医の管理と指導にあたっております。本学付属歯科病院における歯科医師臨床研修は、学部教育で習得した歯科診療に関する知識、技能および態度を臨床の場に結び付け、患者中心の全人的医療を実施することで、歯科医師としての基本的診療能力を身につけるとともに、将来の生涯教育研修の基礎を得ることを目的としています。当分野はこれを達成するための研修プログラムの作成や研修歯科医による総合診療の研修指導を行い、必要に応じて研修歯科医のメンタルケアにも対応しております。

また、学部教育の中では、「クリニカルパスウェイ」などの講義や病院見学実習の一部といった卒業後の臨床研修に関わりの深い分野を中心に担当しています。

その他に歯学教育に関する研究や、希望する研修歯科医の研究活動のサポート、専門医等の取得の指導などを行っています。

医療人間科学分野

今日、社会・経済分野での急速なグローバル化が進んでいます。地域基盤社会が崩壊し、大都市における人口集中、地域の過疎化により、へき地・離島と都市、開発途上国と先進国間の医療格差が深刻な問題となっています。そのため医療現場では、常に問題発見と問題解決能力の備わった医療人の行動が求められています。

医療人間科学分野は本学部の教育理念をもとに創設された行動科学系の教育研究分野です。「社会に有為な歯科医師」として医療人の育成をミッションとします。施設見学、臨床実習および臨床研修体験を基盤として医療人としての自律を支援します。

本分野の取組として地域医療、社会福祉、医療倫理、プロフェッショナリズム、医療コミュニケーション、さらには医療ICTシステムを活用した国際保健医療に資する教育や研究を推進していきます。学生諸君とともに医療の情報化・国際化時代に相応しい医療人教育の在り方を探求していきたいと思っております。

外国語分野 (英語)

英語学習について皆さんはどのくらい意識していますか。仮定法より先に受動態を学ぶのはなぜか。コミュニケーション練習では内容と文法法則のバランスはどうあるべきか。「やる気」が学習効率をどの程度説明できるのか。母国語と外国語はなぜ同じように身につかないのか。英語習得の「なぜ」に関する知見に目を向けつつ、本講座では日本人教員3名と英語母国語話者教員5名の構成で英語学習と演習を提供しています。日常英語から大学英語へ、そして専門性の高い歯学系学術英語へと進めていきます。言語なくして成立しえない人間社会活動は多岐に渡りますし、言語が人間を人間たらしめる大きな要因の一つである点を意識しつつ、教員は教育学、文学、言語学、文化学で研究し、言語と言語によって表出する多文化の詳細を分析し続けています。言語は生きているといわれることがありますが、生きることを示せる言語として体系的な研究と教育を目指しています。

健康科学分野

スポーツ基本法の前文にはスポーツの価値が以下のようにうたわれています。「スポーツは、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである。」健康科学分野では、主に第1学年の授業を担当しています。身体活動を通して他者と接する中でこそ学べるものがあると考え、特に前期の実技を重視しています。所属教員の研究テーマである「アダプテッド・スポーツ」「障害のある人のスポーツ」を授業内容に取り入れ、低学年のうちから多様性についての理解を深めてもらっています。これは、多様なニーズに応えることができる歯科医師の育成に寄与したいという考えから来ています。現在は、実技も遠隔授業ですが、学生一人一人を把握できるよう、また、学生同士のコミュニケーションが図れるような工夫を日々おこなっています。

数理情報科学分野

当分野は主に第1学年の数学・情報科学・統計学の演習科目を担当しています。いずれも英語にすると、Mathematics、Informatics、Statisticsと最後がcsになる学問なので、学習内容についてよく考え抜いて正しい理解に達すると、クスッと微笑できる教科です。数学では、解法パターンの暗記など表面的な理解に留まった勉強の仕方から、物事を論理的に考え多面的な視点から見て、本質的な理解をする学習姿勢が身につくように努めています。情報科学（前期）では、表計算ソフトによるデータ処理が目標の一つとなっています。セルの絶対参照と相対参照が初学者にとってハードルですが、統計学（後期）でも一歩進んだ形で扱い、しつこく繰り返すことで徐々にわかっていく体験ができることでしょう。統計学は国家試験でもときどき出題されるので、過去に出題された問題にも挑戦してもらい、授業内容をしっかり理解していれば結構行けそうという自信に繋がればと期待しています。

基礎自然科学分野（物理学）

基礎自然科学分野（物理学）は、物理学実験Ⅰ、Ⅱの教科を主に担当している。

高校での理科教育は、1994年以前では4教科（物理、化学、生物、地学）の全ての領域が教えられていたが、学習指導要綱の変更で2教科選択必修となった。このため、平気で「高校では物理をやってきていません」と胸をはって言う新入生が多く出現しているのが現状である。しかし、中学から習うメンデルの遺伝の法則を知っているかを問うと殆どの学生は「知っている」と答える。この法則は、若き修道士メンデルが数理好きで物理学と確率論を学んでいなければ生まれなかったのである。昨今の分子生物学も物理的思考によって生み出され、生物学が確たる理論を持った厳密科学の仲間入りを果たしたことは言うまでもない。

本学部では生物学の基礎知識を基盤として歯科医師としての専門領域を学修しなければ国家試験を乗り越えられないのは確かである。しかし、物理学を知らない生物学履修者が生まれることは、自然科学の形成史からしても全くもって不自然で、大学の教育現場でこそ、その修正を行える最後のチャンスと考えて授業を担当している。

基礎自然科学分野（生物学）

第1学年前期から第2学年の前期までの間を担当します。1年前期の細胞生物学では、細胞に始まり、組織から器官、そして個体へと視点を変えながら生命現象の基本を学びます。後期から始まる生物学実習では“実際に体験してみる”ことを主眼として、机上で学んだ内容を、生きた知識として蓄えて欲しいと思います。同じく後期から始まる遺伝学では、遺伝情報の継承と形質発現、ヒトゲノムの概要、遺伝子多型など体系的に理解し、将来的に学ぶ疾病の知識基盤を作ります。また、2年前期の細胞と生体機能実習では、口腔外科、化学と連携し、データ収集、解析、疾患に関しての情報収集を行い、お互いにプレゼンを行うことで基礎的な知識が全身疾患の理解にどうつながるのかを体感してきます。生きた知識は単なる暗記では成り立ちません。大学で求められる理解力に繋がる、自分で膨大な情報を整理しまとめる、説明できる力を、この期間を通じて培ってください。

基礎自然科学分野（化学）

基礎自然科学分野（化学）では、第1学年の物理化学、有機化学、化学実験、生体高分子を主に担当しています。この桜歯ニュースが発行される頃にはもうすべての授業が終わっていることでしょう。

第1学年のときには、化学が担当している科目は何か歯科と関係のない内容に思っているかも知れませんが、実はいろいろなところで関係しています。授業中も何度もそういっていますが、たぶん信じていない人が多いでしょう。上の学年を教えている先生方から、こんなことも知らないのだけど教えていないの？といわれることがよくあって、いやいや百万回くらい力説していますよと答えることの繰り返しです。生体内の現象はすべて化学反応によって起こっているわけですから。

化学の教員は毎日化学のことを考えて研究しているのかと思うかも知れませんが、実は違います。それをここで紹介する余地は与えられていないので何れまた何かの機会に。



『ドン・キホーテ』と『女キホーテ』

シャーロット・レノックス著

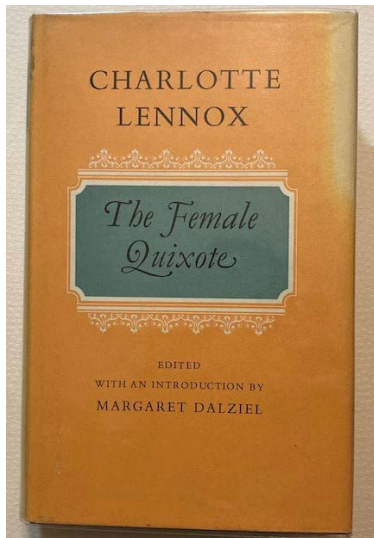
中野 善夫

みんな知っているけれども誰も読んでいないといわれる本があって、その一つにセルバンテスの『ドン・キホーテ』がある。その本の名前もあの風車の場面も誰もが知っているが、全部読んだという人にはまだ会ったことがない。あの話は主人公が中世騎士物語を読み過ぎたせいで自分も騎士になりたくて勝手にドン・キホーテを名乗るところから始まるということをご存知だろうか。実は私は『ドン・キホーテ』を読むためにスペイン語を学ぼうかと思っただけくらい面白い話なのだ。

だが、ここで紹介したいのは『ドン・キホーテ』よりも、Charlotte Lennoxという人が1752年に発表した*The Female Quixote; or, The Adventures of Arabella*である。こちらはフランスの歴史ロマンスを読み過ぎて、現実の恋愛もそういうものなのだと思います。貴族の令嬢アラベラの話。アラベラを愛する若者とその妹を相手に引き起こす騒動が面白いのだが、しかし最後には現実に目覚めてようやく若者の自分に対する愛を受け入れて結婚するという結末は些か呆気ない。ドン・キホーテが男であるのに対しアラベラが女であるせいか。古い作品だが現代の目で読むとまた面白い。少し古い英語だが流れに乗ればたぶん読める。

おそらくここでは人生を導いてくれる本を紹介しなければならないのだろう。何かそれらしいことをいうとすれば、何かを名乗ることによってそうなれることもあるから冒険を躊躇うなということ（ただし歯科医師はそういう手段で目指してはいけない）、女だからといって冒険を諦めないでほしいということと、さらに本は現実認識が狂うくらい読んでこそ楽しいのだということだろうか。

(教授 基礎自然科学分野 (化学))



リーダーズキャンプ

学生生活副委員長 山岡 大

昨年度、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、中止となったリーダーズキャンプが11月6日、創設百周年記念講堂にて開催された。感染対策を徹底した上で、新旧の主将64名が参加し、対面形式での実施となった。

活動制限によって新入部員が確定していない中、クラブ存続の危機感を抱きながらの開催であった。今年度実施されたオンライン勧誘での仮入部員の取扱いを踏まえ、対面形式でのクラブ活動の再開に向け、各クラブの活動形態、及び施設の状況等の差異に応じた段階的な手順についての話し合いがなされた。また、令和4年度から開始される新校舎の部室利用について、引越しや専有面積の割振りについても活発な意見交換があった。

未だ新型コロナウイルス感染拡大の動向がつかみきれない状況ではあるが、参加学生のクラブ活動再開への情熱が伝わる令和3年度のリーダーズキャンプであった。(教授 基礎自然科学分野 (物理学))

クラブ協議会会長 平田 隼輝

2年ぶりにリーダーズキャンプが開催されました。議題としては、来春4月の部室移転に伴うスペース配分、先日行われたオンラインクラブ説明会の反省等が挙げられました。例年では、収支報告や勧誘の規則について等、ある程度決められた内容について議論がなされ



れておりましたが、昨今のコロナ禍においてクラブ活動が行えていない事もあり、今までとは一風変わったリーダーズキャンプとなりました。新しく資料等を作成し直すなど、今年ならではの苦労が多々ありました。

重圧がのしかかり、不安な気持ちで迎えた当日でしたが、蓋を開けてみれば各クラブの要望や意見を中心として活発な議論・協議を行う事ができ、非常に有意義な会にする事ができました。これからもクラブ活動がより良いものとなるよう、誠心誠意会長任務を全う出来ればと思います。今後とも宜しくお願い致します。末筆でございますが、開催にあたりお世話になりました学生生活委員の先生方、学生課の皆様、ご指導ご協力頂きありがとうございました。

(第4学年)

ワールド・カフェ

渡辺 孝康

秋分を過ぎ朝夕に涼やかな風を感じる10月10日(日)、16,000名を超える本学の第1学年学生が学部を超えて集まる日本大学ワールド・カフェ(N-Mix)が行われました。2017年の開催以来、複数のキャンパスを会場として対面で実施されてきましたが、今年度はコロナ禍での開催とあって、昨年に引き続きインターネットを通じての開催となりました。

日頃からオンライン授業を受講しているだけあって、画面越しのカフェ参加には学生も慣れたもので、「AI時代の社会と人間」をテーマに活発な議論が繰り広げられました。今年度は、オンライン上でアイデアを付箋に記し、模造紙に自由に貼って矢印などを書き込めるGoogle Jamboardアプリが初の導入。あたかも直接集まって議論を交わしているかのようで、好評を博していました。

歯学部では、教職員9名がカフェ店員となり「ワールド・カフェ歯学部店」を開店。法学部、経済学部、理工学部などから200名弱が来店し、初めは敬語の自己紹介で緊張がみられたものの、カフェの雰囲気も手伝って次第に打ち解けた様子が印象的でした。配属の都合上、ほとんどの歯学部学生は他の学部開催のカフェへ参加したことから、筆者が彼らの様子を直接見ることは叶いませんでしたが、各々に有意義な時間を過ごせたことと思います。

終わってみれば楽しい時間はあっという間ですが、開店前はオンライン開催に起因するトラブルへの不安が尽きませんでした。しかし当日は3号館に教員が集い、教務課員の方々にサポートいただいて、学生と共に会話を楽しみ多様な考え方に触れる貴重な経験ができました。皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。(助教 基礎自然科学分野(化学))



「ワールド・カフェに参加して」

川口 英佳

この度、ワールド・カフェに参加しました。コロナ禍ということでオンライン上での議論で不安はありましたが、文系、理系、医療系の枠を超えて交流でき、様々な考え方に触れる事が出来ました。参加者それぞれが、しっかりと意見を持っていたので、想像以上に多くの洞察が生まれました。また、お話していて、受け身ではなく能動的に行動している方が多い印象を受けました。今後は、私自身も考えるだけでなく、率先して行動をしていきたいと強く思いました。普段は、歯学部の中での授業や、友人との交流だけなので、このような他学部生との交流は、とても新鮮で貴重な機会でした。

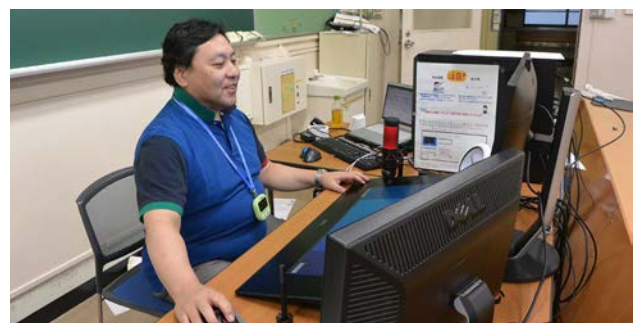
オンライン上でのワールド・カフェでしたが、多様な価値観を共有し、受容力を身につけられ、大変有意義な意見交換の場となりました。この経験を活かし、今後の学生生活に励みたいと思います。

(第1学年)

石田 大

AIについての議論を行った今回のワールド・カフェで、反対に私は人間について気付かされた。というのも、同じ班に雑談ばかりしてしまう学生がおり、はじめはやりづらさを感じていたのだが、和気藹々とした雰囲気の中で最初の部を終えることができた。そして次の部、メンバー入れ替えを行うと、全然話が進まない。彼はムードメーカーだったのだ。自分が進行を担っている気分になっていたが、むしろ彼に頼りすぎていたと気付かされた。

何が画面の向こうの音声を人間とAIに分けるのか。結論にコミットするだけでは人間は進むことができない。感情を共鳴させ、ゆっくりと進む。AIの効率性と人間の非効率性。だがこの「急がば回れ」にこそ人間の良心があるのではないだろうか。今回得られた経験を咀嚼し、来るAIの時代を人間として研鑽し、戦い抜くことが出来る存在でありたい。(第1学年)



カフェ・マスター 上原先生

しゃべり場に参加して

大橋 晶子

令和3年8月30日(月)と9月8日(水)にZoom(Web会議ツール)を介して「しゃべり場」が開催され、第1～5学年の学年代表者18名、職員2名、教員6名が参加しました。8月30日には事前準備として少人数のグループに分かれて「コロナ禍での学生生活の不安について」の意見交換が実施されました。その後、9月8日には参加者全員による「しゃべり場(総まとめ)」が行われ、各グループで出された意見が発表されました。

教職員からは、運動不足やストレスなど学生の健康面、およびオンライン授業での学習効果に対する不安があるとの意見がありました。学生からは、主に成績や勉強環境、そしてコミュニケーションに関する不安が多数挙げられました。特に平常試験などの成績の公表や問題のフィードバックを希望する意見が多く出されました。成績に関する意見はコロナ前に行われた「しゃべり場」でも挙げられていましたが、コロナ禍で他者とのコミュニケーションが激減していることで、より不安が大きくなっていると感じました。さらに、1、2年生においては、入学してから対面授業やクラブ活動が殆ど実施されていないため、交友関係に関する不安が非常に大きいことがわかりました。これに対して、学年代表者会やクラブのオンライン勧誘なども他学年と対話する場の一つとなりえるので、より多くの学生に利用してもらいたいと思いました。

今回の「しゃべり場」で出された様々な意見が学生へフィードバックされることで、歯学部の教育システムがより改善する一助となることが期待されます。私自身も「しゃべり場」において、学生からの忌憚のない意見を聞いたことは非常に貴重な経験となりました。(助教 解剖学第I講座)



全学FDワークショップに参加して

中谷 有香

9月2日(木)、3日(金)、日本大学の様々な学部
の教員職員が参加して行われる令和3年度全学FD
ワークショップに歯学部の教員代表として参加させて
頂いた。

文部科学省は、現代社会において充実した生活と
社会の持続的な発展を実現するにあたり、一人一人
が自らの能力を高めるために大学教育が重要な役割
を担うとし、それぞれの大学が教育理念を示してそ
れに基づく教育活動を図ることを求めている。本学
では「自主創造」という日本大学教育憲章を掲げ、
これを達成するために必要な「自ら学ぶ」「自ら考
える」「自ら道を開く」という構成要素を定めている。

今回のワークショップでは、小人数グループに分
かれて実際に初年度教育におけるカリキュラム作成
を体験することで、「自主創造」を達成するための構
成要素などを再確認しながら、シラバス作成におけ
る細かい注意点や考え方を学んだ。また、グループ
討論で有効とされる手法なども学ぶ機会となってい
た。オンラインでの開催とあって、小グループでの
ディスカッションは意見が誇張されてやりにくさ
を感じる部分もあったが、トイレ休憩も取れないくら
いタイトな時間の中で、メンバーの積極的な参加と
タスクフォースとして参加されている先生方の講義
や助言を頂くことで、時間内になんとか課題を終え
ることができた。最後には、それぞれ発表する時間
も設けられており、多様なスタイルのシラバスが作
成されていて興味深かった。

私はまだ教員としての経験は浅く、大学という大
きな組織を形成するための様々な枠組について知ら
ないことも多いため、今回のワークショップはそれ
を学ぶ機会にもなったと感じている。

(助教 薬理学講座)

令和3年度 全学FDワークショップ 開催要項



1 趣 旨

本ワークショップは、部科校におけるFD等を担当する教職員が会し、アウトカム基盤型教育の実践に必要な「日本大学教育憲章」を基軸とする科目立案能力を獲得し、ファカルティ・ディベロップター(FDer)*として各部科校で活躍できる人材を育成することを目的とする。

*部科校において、授業改善、カリキュラム改善及び組織整備を目的としたFDを企画・実施できる人材。

① テーマ

「大学教育における課題の解決に向けて」

—教育能力の開発(Faculty development)を企画・運営できる人材の育成—

■附属専門学校から

歯科技工専門学校

後期の授業も、感染対策を徹底しながら対面で行われています。教員も学生もこの状況にだいぶ慣れましたが、気の緩みははまだ禁物な状況です。10月に予定されていた駿技祭は、今年も中止となりました。1年生と2年生は、球技大会とともに一度も経験していないので、来年こそはきっと!と願っています。3年生は、卒業と国家試験に向けてラストスパートです。平常試験や模擬試験を受ける機会も増えてきました。12月には全国歯科技工士教育協議会による実技評価試験が行われ、全員合格しました(写真)。2月の国家試験も、この調子で3年間の成果を存分に発揮して欲しいと思います。



歯科衛生専門学校

令和3年11月1日に、日本大学歯学部創設百周年記念講堂にて日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校第63期生(2年生)の戴帽式を執り行いました。本年におきましても昨年同様に、新型コロナウイルス感染症予防拡大の観点から、3密を避けた略式での挙行となりました。戴帽者の呼名を行った後に、校長式辞、歯学部長告辞、病院長訓辞、そして最後に校歌演奏を行い、厳粛な雰囲気の中で式は終了しました。尚、授業形式におきましては、1年生では遠隔授業と対面授業を新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じ、柔軟に切り替えて行っています。2年生ではいよいよ病院実習も始まり、緊張の中で学修しながらも、将来自身が目指す歯科衛生士像を頭に描きながら充実した日々を過ごしています。また3年生は国家試験全員合格を目指し、勉強に忙しい毎日を送っています。教職員一同、歯科衛生専門学校生がコロナ禍でも充実したキャンパスライフを過ごせるように、全力でサポートおよび応援をしています。



父母懇談会開催

昨年度は、新型コロナウイルスのまん延により中止となった父母懇談会であったが、今年度は令和3年10月9日(土)14時から御父母246名(Zoom入室者数)が参加をして、初めてのZoomを利用したオンライン形式による開催となった。本田和也歯学部長の挨拶に続き、事前にGoogle Formにて御父母よりいただいた質問のなかで全学年に共通する学務に関することについては、今村佳樹学務担当が回答した。その後、学年別にクラス担任による質疑応答も含めた懇談会が開催された。



学年別懇談会の様子(写真上:第5学年、下:第4学年)

解剖体追悼法要

令和3年10月30日(土)14時から築地本願寺にて、松戸歯学部と合同の解剖体追悼法要が行われた。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響に伴い、参列する御遺族の安全を考慮し、学内関係者のみで執り行った。歯学部からは、本田和也歯学部長、石崎和文事務局長、高橋富久教授(解剖学第I講座)が参列した。

佐藤会

昨年11月14日(日)に、本学部創立者の佐藤運雄先生のご遺徳を称えて毎年開催されている佐藤会が行われた。当日は本学部ならびに同窓会より役教職員が佐藤先生の菩提寺の青松寺へ墓参し、13時から式典を大会議室で挙行了。同窓会員と関係者が参集し、叙勲者紹介、名誉会員記贈呈、佐藤賞授与が行われた。本年度の佐藤賞は学内から黒川弘康先生(歯科保存学第I講座准教授 学41)「バイオミメティクスを応用した次世代型フロアブルレジンの開発」、学外から茂呂和世先生(学51)「Innate production of Th2 cytokines by adipose tissue-associated c-Kit+Sca-1+ lymphoid cells」に授与された。

NewsPlus α

☆第21回歯科基礎医学会ライオン学術賞受賞

篠田雅路教授(生理学講座)が「口腔顔面メカニズムの解明」の研究において第21回歯科基礎医学会ライオン学術賞を受賞されました。この賞は、歯科基礎医学会分野において、国際レベルの卓越した研究成果を挙げ、歯科医学の発展・進歩に多大に寄与した功績を称え授与される賞です。



☆消防表彰

令和3年11月15日(月)、令和3年度火災予防業務協力者に対する表彰状の贈呈式が行われました。全国一斉「秋の火災予防運動」実施にあたり、本学部の自衛消防活動、火災予防や防火防災思想の普及及び人命安全対策等に尽力したことが評価され、東京消防庁神田消防署長から表彰されました。

今後も歯学部は、東京消防庁及び神田消防署と連携のうえ、消防行政に協力し、より一層安心安全なキャンパスの確立を目指してまいります。



☆新図書館移転に伴う図書館休館日等について

- ・休館日 令和4年3月5日(土)から
令和4年3月31日(木)まで
- ・長期貸出 図書の貸出は3月4日(金)までとし、
返却日は一律4月8日(金)とする。

学 事

令和4年度入学者選抜

【一般選抜(N全学統一方式第1期)〈日本大学が実施する試験〉】

- ◆募集人数 7名
- ◆出願期間 令和4年1月5日(水)～1月21日(金)
- ◆試験期日 令和4年2月1日(火)
- ◆合格発表 令和4年2月10日(木)
- ◆入学検定料 24,000円
- ◆選考方法 ①数学①「数学I・数学II・数学A・数学B(確率分布と統計的な推測を除く)」②理科「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」のうちから1科目選択
③外国語「コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III・英語表現I・英語表現II」
- ※理科において、医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。
- ※合否判定は標準化得点で行う。

【一般選抜(N全学統一方式第2期)〈日本大学が実施する試験〉】

- ◆募集人数 3名
- ◆出願期間 令和4年1月5日(水)～2月24日(木)
- ◆試験期日 令和4年3月4日(金)
- ◆合格発表 令和4年3月12日(土)
- ◆入学検定料 24,000円
- ◆選考方法 ①数学①「数学I・数学II・数学A・数学B(確率分布と統計的な推測を除く)」②理科「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」のうちから1科目選択
③外国語「コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III・英語表現I・英語表現II」
- ※理科において、医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。
- ※合否判定は標準化得点で行う。

【一般選抜(A個別方式)〈歯学部が実施する試験〉】

- ◆募集人数 57名
- ◆出願期間 令和4年1月5日(水)～1月21日(金)
- ◆試験期日 令和4年2月3日(木)
- ◆合格発表 令和4年2月10日(木)
- ◆入学検定料 50,000円
- ◆選考方法 ①数学「数学I・数学II」②理科「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」のうちから1科目選択
③外国語「コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III」④小論文(60分・字数は当日指定)⑤面接
- ※理科の選択科目において、平均点に20点以上の差が生じた場合は、得点調整を行う。
- ※合否判定は素点で行う。

【一般選抜 (C共通テスト利用方式第1期)〈大学入学共通テストを利用する試験〉】

- ◆募集人数 10名
- ◆出願期間 令和4年1月5日(水)～1月21日(金)
- ◆試験期日 ◇大学入学共通テスト
令和4年1月15・16日(土・日)
- ◆合格発表 令和4年2月17日(木)
- ◆入学検定料 24,000円
- ◆選考方法
◇大学入学共通テストでは、下記の教科・科目を受験すること。
①国語「近代以降の文章のみ利用」 ②理科「物理」「化学」「生物」のうちから1科目選択 ③外国語「英語」
- ※理科(基礎を付していない科目)において、2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。外国語「英語」において、リスニングの成績は利用しない。

【一般選抜 (C共通テスト利用方式第2期)〈大学入学共通テストを利用する試験〉】

- ◆募集人数 2名
- ◆出願期間 令和4年1月5日(水)～2月18日(金)
- ◆試験期日 ◇大学入学共通テスト
令和4年1月15・16日(土・日)
- ◆合格発表 令和4年3月3日(木)
- ◆入学検定料 24,000円
- ◆選考方法
◇大学入学共通テストでは、下記の教科・科目を受験すること。①理科「物理」「化学」「生物」のうちから1科目選択②外国語「英語」
- ※理科(基礎を付していない科目)において、2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。外国語「英語」において、リスニングの成績は利用しない。

お知らせ

歯学部行事予定

- 1月 21日(金) 卒業者発表
- 23日(日) 第4学年C B T
- 29日(土)・30日(日) 第115回歯科医師国家試験
- 2月 1日(火) 一般選抜(N全学統一方式第1期)
- 3日(木) 一般選抜(A個別方式)
- 10日(木) 一般選抜(N全学統一方式第1期, A個別方式)合格者発表
- 17日(木) 一般選抜(C共通テスト利用方式第1期)合格者発表
- 19日(土) 第4学年O S C E
- 25日(金) 第4学年C B T追・再試験
- 3月 3日(木) 一般選抜(C共通テスト利用方式第2期)合格者発表
- 5日(土) 大学院入学試験(第2期)
- 9日(水) 第1～5学年進級者発表
- 12日(土) 一般選抜(N全学統一方式第2期)合格者発表
- 15日(火) 大学院入学試験(第2期)合格者発表
- 16日(水) 第115回歯科医師国家試験合格発表
- 25日(金) 日本大学歯学部卒業式・学位記伝達式

寄付金の受け入れ

=研究助成金=

40万円	株式会社ジーシー 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 中尾 潔貴 殿)	9.27
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	9.30
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科補綴学第Ⅲ講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	9.30
60万円	公益財団法人8020推進財団 歯科補綴学第Ⅲ講座へ (理事長 堀 憲郎 殿)	11.19
50万円	ULTRADENT JAPAN株式会社 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 鍛地 裕司 殿)	12.7

**歯学部新校舎について
(次号予告)**

前号(212号)でお知らせした通り歯学部新校舎本館の建設は2021年10月末に2期工事が終了し、現在、設備備品の設置が進んでおります。また、2022年1月からは1号館の研究室の引っ越しが予定され、基礎系講座では、その準備が始まっています。1期工事と2期工事を経て一体化した新校舎について、次号(214号)で詳しくお伝えいたします。



編集後記

「桜歯ニュース」は今号で213号となりました。本誌の創刊は昭和43(1968)年6月、日大紛争の際に正確な情報が伝わらないことにより起こった混乱を是正するために発刊されたそうです。その後、学部内の様々な出来事や情報を伝える内容となったのは昭和49年5月に発行された22号からとなります。昭和53年度からは現在と同様の季刊となりました。創刊当時から紙媒体で発行されてきた本誌ですが、令和2(2020)年度からは4月号以外は電子媒体のみの発行となっています。先日、「電子媒体になってから、見ている人が減っているのではないか?」と質問を受けました。実際にどのくらいの方が桜歯ニュースに目を通していただいているのでしょうか。電子媒体、紙媒体、それぞれの良さがあると思います。媒体が何であれ、編集委員としては情報を正しく伝えていくことが重要だと考えています。球技大会、歯学体、桜歯祭・NU祭…学生の生き生きとした姿を伝えられる日が一日でも早く来ることを願っています。(N.S)

表紙の写真は佐藤紀子先生(健康科学分野)にご提供頂きました。

第213号 日本大学歯学部発行
東京都千代田区神田駿河台1-8-13 TEL 03(3219)8001